

姫天だより

“つる座”は昔“みなみのうお座”に含まれていた星座ですが、1603年にドイツのヨハン・バイエルが、全天星図「ウラノメトリア」に発表した新しい星座です。しかし、一説には、15世紀のオランダの航海家ペトルス・テオドルスが最初につくったのではないともいわれています。

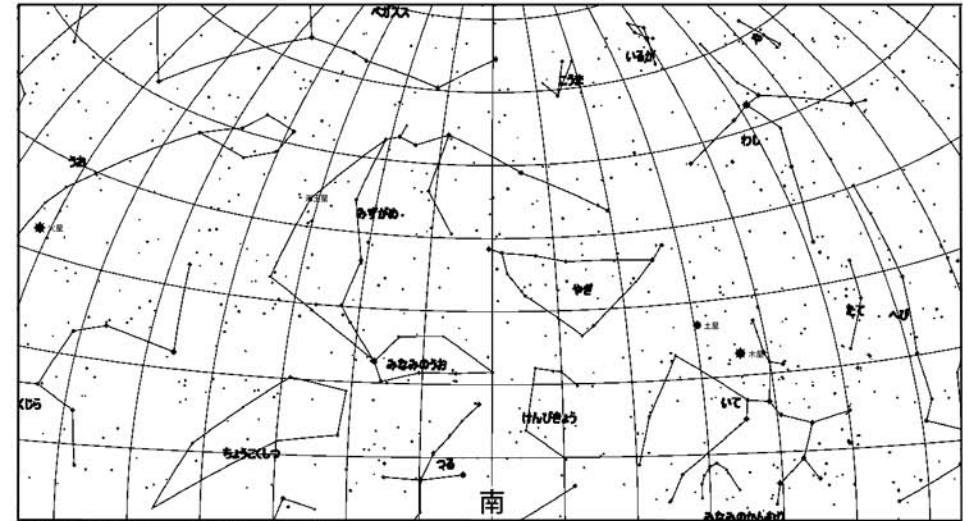
新しく作られた星座ですから神話はありませんが、α星にはアルナイル（魚の輝く星）という名前がついています。また、β星にもアルダナブ（尾）という名前がついていますが、白鳥座の1等星デネブと同じ意味の名前です。星の名前から南の魚座に含まれていたことが解りますね。

★今月のテーマ 火星を観る会

2年2か月ぶりに地球に接近中の火星を観る会をおこないます。

例年、中秋の名月の翌月は後の月を観る会を行います。今年は2年2か月ぶりに火星が地球に準大接近します。前回2018年5月には今回よりも大接近したのですが、砂嵐の影響で表面の様子はぼやけていました。準大接近とはいえ見かけの視直径は22.6秒もあります。表面の様様まで見えるといいな。それでも南西の空に輝いている木星や土星と比べると小さいんですけどね。

中秋の名月（十五夜）と後の月（十三夜）の月見と2回見ないと縁起が悪いとされていますので、天気が良かったらみなさんも十三夜の月見をしてください。今年の後月は10月29日（木曜日）です。しかし、2回のお月見以外にも日本人は月を愛でていたことが月の名称からもよくわかります。例えば満月翌日の十六夜の月、イザヨイ、またはイサヨイと読みます。ためらうという意味で、月が出てくるのをためらっていると感じていた様子です。立ち待ち月、居待ち月、寝待ち月、更け待ち月・・・また歌にも表現されている有明の月、などなど風情のある素敵な呼び方だと思います。



10月15日午後8時の南の空

10月号
2020

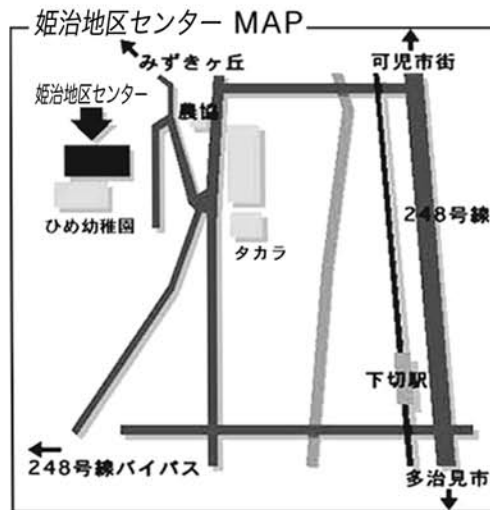
-次回の天文クラブ-

●10月の星を見る会

10月10日(土)午後7時30分より
火星の観察
秋の星座観察

●11月の星を見る会

11月14日(土)午後7時30分より
獅子座流星群の話
秋の星座観察



JR太多線下切駅より徒歩13分
2020年10月1日発行

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 つる座

なんだか8月から、あまり知られていない小さな星座ばかり紹介していますね。人知れず輝いている小さな星座まで見つけられるようになると楽しいですよ。私は、わざわざマイナー星座を観るために、プラネタリウムのあまり人が座らない目的の星座が見られるところを探していると、案内の職員から、こちらが見やすいですよと声を掛けられることが良くあります。そんな時は見たい星座があるのでと答えています。ほとんど病気ですね。

10月下旬の午後8時頃に真南に来るこの星座は、秋のただ一つの1等星がある“みなみのうお座”の南にある星座です。探し方は、秋の一つ星フォーマルハウトから15度（体の分度器でLサインを描いた角度）ほど南にさがった西側に“つる座”の中心があるのですが、最も高く上ってもその地平線からの高度は10度ありません。ですから大気の影響で減光してしまううえに、可児市では名古屋や春日井市の光害の影響もあり、この星座を見つけることはかなり困難です。しかし、大気の澄んだ夜には先ほどの探し方で中心部を見つけると、1.7等星のα星と2.1等星のβ星そして3等星のγ星がひらがなの「く」の字を反転したような形に並んでいるのがみつかります。ただし、星ぼしを結んで“つる”の姿を描いてその美しさを楽しむには南半球や赤道あたりまで出かける必要があります。